

About Me

～終末期ケア専門士を目指して～

私はこれまで呼吸器内科や人工透析内科、緩和ケア、救急外来やHCU等に22年間、訪問看護師として7年間従事して参りました。仕事をする中で各領域での専門知識や技術を磨いていく姿勢をもって働いてきました。働く中で元気になって自宅へ帰れる方も多いれば、病気や予期せぬ事故によって障がいを背負ってしまったり、亡くなられる方との関わりも数えきれないほど経験してきました。ご利用者様の最期に寄り添う場面の中で「もっと自分にできることはなかったのか」「このケアは本当に正しかったのか」と悩むことが多々ありました。

そんな時に終末期ケア専門士の存在を知りました。これは医療・介護職の方が生活援助から延命治療に関する意思決定支援、心理的サポートまでエビデンスに基づいてケアを実践できるようになることをを目指す資格のことです。会社の研修・資格取得制度を利用して受講し、今回合格することが出来ましたが、このままで満足しておりません。今後も日本終末期ケア協会の資格更新システムでの動画視聴やセミナーへの参加によって学びをさらに深めていきたいと思っております。

また厚労省による統計要質(人口・世帯、人口動態)を確認すると、近年医療機関で逝去する方の割合は減少し、介護老人保健施設や介護医療院、老人ホーム、自宅等で逝去する方の割合が増加傾向にあります。訪問看護ではますますこの知識が重要になります。

終末期ケア(ターミナルケア)の知識を学び続けることによって、日々の看護の質を向上させ、目の前にいるご利用者様一人ひとりの価値観に寄り添うコミュニケーション、意思決定支援のプロセスを日々のケアに活かしていきたいです。
ご利用者様の身近な存在で「支える人・心強い存在」になりたいと考えております。
ご利用者様の笑顔の絶えない支援を目指して頑張ります。今後とも宜しくお願ひ致します。

神崎 泰一

終末期ケア専門士



『パーキンソン病と生活を支える専門ケア』

毎日寒暖差があり、体調の変化が起こりやすい季節ですが皆様いかがお過ごしでしょうか。当ステーションでは、パーキンソン病支援体制と転倒予防ケアの強化を進めております。本号では、当ステーションの取り組みをご紹介いたします。

パーキンソン病療養指導士が在籍

当ステーションには、パーキンソン病療養指導士（PDパーソナルソーター）資格保有スタッフが在籍しております。この資格は、医療・生活・制度・心理面を含め、パーキンソン病の方を包括的に支援できる専門性を持った人材に与えられるものです。

リハビリ内容・対象例

対象者様の状況に応じ、以下の支援が実施できます。

- ・歩行・姿勢・バランス訓練
- ・関節可動域改善・硬さへのアプローチ
- ・トイレ・更衣・移乗など生活動作訓練
- ・自主訓練プログラムの作成・定期見直し
- ・介助方法や環境調整の助言

<サポート内容例>

- ・ON / OFFに合わせた運動調整・活動計画
- ・すくみ足に対するCueing・リズム歩行
- ・睡眠・便秘・疲労対策など生活課題への助言
 - ・動作の工夫、介助方法、家族支援

疾患特性に応じた個別性の高い対応が可能です。



「以前より歩きにくい」 「転倒が増えた」 「動作が遅くなった」など、小さな変化もご相談ください。